

『凸凹地図でみる 多摩丘陵の地形と幹線道路』

—古道と現道を重ねて見えてくる幹線道路の変化—

五十嵐 彰（株式会社 東京地図研究社）

1 はじめに

多摩丘陵は、東京都から神奈川県にかけて広がる丘陵地であり、尾根と谷が繰り返される起伏に富んだ地形を特徴としています。古くから交通路が形成され、人々の往来や地域間の交流を支えてきた一方、近年では多摩ニュータウンの開発などに伴い、新たな幹線道路が整備され、道路網も変化してきました。

本地図は、当社独自の地形表現手法である「多重光源陰影段彩図TM（通称：凸凹地図 Std.TM）」¹⁾を用いて多摩丘陵の地形をビジュアル化し、旧版地形図から復元した古道と現在の幹線道路を重ね合わせることで、多摩丘陵における幹線道路の変遷と地形との関係を可視化しました。古道と現道を比較することで、交通軸が現在まで受け継がれた区間と、新たに形成された区間を視覚的に読み取ることができます。

2 開発に伴う道路網の変化

野猿街道や川崎街道では古道と現在の道路がほぼ一致しており、鎌倉街道についても一部区間を除いて交通軸が継承されていることが確認できます。一方、丘陵の南部では古道と現在の道路でルートが異なる区間が見られます。旧版地形図には現在のような高規格道路は見られませんが、尾根や谷沿いに道幅の狭い道路網が見られ、開発前の多摩丘陵には現在とは異なる道路網が形成されていました。

現在の道路網は、一部区間で既存の道路網を活用しながら新たな道路へ再編されたと考えられます。

なお、現在の主要幹線道路となっている多摩ニュータウン通りや尾根幹線は、旧版地形図でこれらに該当する道路は確認できません。

このように、多摩丘陵では古くからの交通軸が受け

継がれる一方、大規模開発にともない新たな幹線道路が加わることで、道路網が再編されてきたことがうかがえます。

3 地形と道路

丘陵の古道は、自然の尾根や緩斜面を利用しながら起伏の小さなルートを選んでるのが読み取れます。一方、現代の幹線道路では地形を改変し、比較的直線的な線形のルートになっています。多摩丘陵の道路は、自然の地形を利用して整備されてきましたが、多摩ニュータウンという大規模開発に伴い、地形も大きく変化し、また、道路整備技術も発達したことで、道路のルート選択も変化してきたことが分かります。

地形と道路を重ねて見ることで、多摩丘陵における交通路の形成や変遷を立体的に捉えることができます。

本作品が、交通路の形成や変遷を地形とともに読み解くきっかけとなることを期待します。

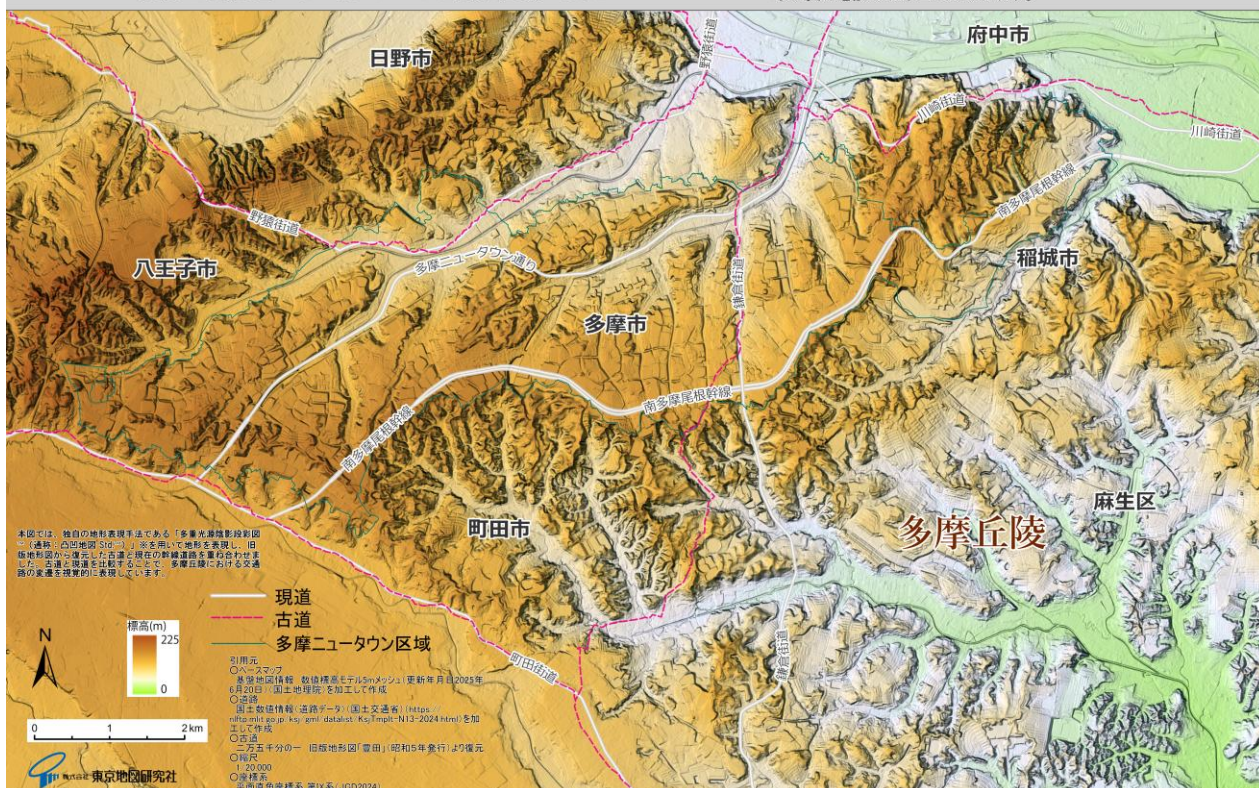
注

1) 高精度な標高データ（DEM）の特長を余すことなく表現するため、東京地図研究社で新たに考案した地形表現手法。一般的な陰影図では仮想的な単光源を左上に設定するが、光源依存性が強いいため、地形の発達方向によっては起伏が見えにくくなる場合がある。この弱点を補うため、複数光源による明度の異なる陰影を作成し、合成処理した上で、さらにカラー段彩を重ね合わせた。これにより自然な過高感が得られると共に、単光源では表現しきれなかった小さな起伏も視認しやすくなる。

凸凹地図でみる 多摩丘陵の地形と幹線道路

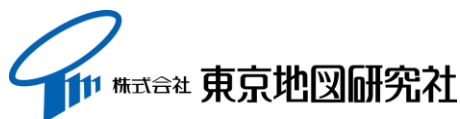
—古道と現道を重ねて見えてくる幹線道路の変化—

古道は尾根や緩斜面を利用しながら形成されたと考えられる一方、現在の幹線道路では比較的直線的な線形が見られます。また、多摩ニュータウン開発に伴い新たな幹線道路が整備されました。古道と現在の幹線道路を比較することで、多摩丘陵における幹線道路の継承と変化を読み取ることができます。



凸凹地図でみる 多摩丘陵の地形と幹線道路

縮尺：1/20,000 座標系：平面直角座標系（JGD2024）第IX区



株式会社 東京地図研究社

〒183-0035 東京都府中市四谷 1-45-2

TEL：042-364-9765 FAX：042-368-0333

ホームページ <http://www.t-map.co.jp>